

解答・解説

問1 傍線部内の「かく」の指示内容は「いかでこの男にもの言はむ」の部分であることを確認したうえで、「いかで」の意味も正確に捉える。

「いかで」…①どういふわけで〜か(疑問) ②どうして〜か。いや〜ない(反語) ③なんとかして〜(強調)の三つの意味がある。ここでは「もの言はむ(＝求婚しよう)」と呼応して、③なんとかして〜(強調)の意となる。

「む」…推量の助動詞。推量、意志、勧誘・適當、假定・婉曲の四つに訳し分ける必要があるが、主語が一人称の場合、「意志」(〜よう、〜つもりだ)の訳が当てはまる。

選択肢判定チェック

よって、正解はイ。

- ア 死期が迫っているので急いで言いますが、私はずっと両親には感謝をお伝えしたいと思っていました。
「うちでもことかたかくやありけむ」「いかでこの男にもの言はむ」の二箇所を押さえている。(○)
イ 今までなかなか口に出せなかったのですが、私はいつかあの人と結婚したいとずっと思っていました。
ウ とても恥ずかしくて今まで打ち明けれませんでした、あなたに愛されて幸せだと思っていました。
エ 死期が迫っているので本心を打ち明けますが、私は両親の勧める人と結婚したいと思っていました。
女が結婚したかったのは、「この男」であり、両親の勧める人ではない。(×)

問2 空へ舞い上がる螢と大空を翔る雁に託して伝えたかった男の、歌に込めた思いを読み取る。

- 女 死の間際に男への思いを口にし、天上の世界へ
男 所在なく喪に服す

宵闇を背景に螢が舞い上がる・空高く飛ぶ雁(雁＝便りを運ぶと言われている鳥)

季節はもう秋に移ったよ、天上の世界にいる女からの手紙を運んで早く帰っておいで＝和歌の主旨

選択肢判定チェック

よって、正解はア。

- ア 女があつてなく死んだあとの男の空虚な思いを踏まえている。(○)
死の直前まで恋する思いを抱き、はかなくも死んだ女への深い同情と哀切な思い。
イ もはや手遅れになってしまったが、どうか私を恨まず安らかに眠ってほしいという願い。
ウ 秋風が吹き季節が移っても女を愛し続けていると、螢から雁に伝えてほしいという思い。
男は自分の思いを螢や雁に託しており、死んで女のもとに行きたいという意志は本文中に書かれていない。(×)
エ 螢や雁に代わって、自分も今すぐ死んだ女のもとへ飛んで行きたいという痛切な願い。

古文の世界

歌物語

和歌が詠まれる前に、詠まれた状況を散文で抒情的な短編「物語」風にまとめているものを「歌物語」と言う。『伊勢物語』や『大和物語』がその代表である。和歌に込められた痛切な思いを、情感と理知を合わせて深く理解し鑑賞するには、どうしてもその前に書かれた物語を正確に読み取ることが必要になる。そのためには、文法や単語知識だけにとどまることなく、本文中の「六月のつごもり」は、旧暦の六月の末、つまり「夏の終わり」であることや、「雁」と言えば「秋」を表すことなどを理解してほしい。この世とあの世、夏から秋への季節の移り変わりといった「境界」をつなぐ役割を、「螢」「雁」が担っていることにも気づこう。

出典 伊勢物語

歌物語。原形は『古今和歌集』成立(九〇五年)以前。多くの人の手による増補・改訂を経て、十世紀後半ごろ現在の形になったと言われている。在原業平(ありむらたのなりへら)と思しき「男」の一代記が、約一二五の章段で構成されている。

2 復習 「伊勢物語」

解答・解説

文法Q 省略Q 解答と品詞分解・現代語訳

動詞
ラ行 変格 活用 連用 形

むかし、男ありけり。人のむすめのかしづく、いかでこの男にもの言はむと思
昔 男がいた。
良家の娘で（親が）大切に守り育てる娘が、なんとかしてこの男に求婚しようと思っていた。

動詞
ナ行 変格 活用 終止 形

ひけり。うちいでむことかたくやありけむ、もの病みになりて、死ぬべき時に、「か
（その思いを）言い出すようなことは難しかったからであろうか、
（恋煩いで）病気になるって、
死にそうになったときに、「こ

くこそ思ひしか」と言ひけるを、親、聞きつけて、泣く泣く告げたりければ、ま
（も深くあの人のことを）
思っておりました」と
むすめが
言ったのを、親が、聞きつけて、
涙ながらに
男に
男は

動詞
カ行 変格 活用 連用 形
動詞
ラ行 変格 活用 連用 形

どひ来たりけれど、死にければ、つれづれとこもりをりけり。時は六月のつごもり、
慌てふためいて駆けつけたが、
（娘が）死んだので、（男は）所在なく（娘の家で喪に服して）こもっていた。時は六月の終わり、

いと暑きころほひに、宵は遊びをりて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。蛭た
副 形ク体 格助 係助 活用 接助 力四終 格助 副 形ク体 力四用 過終 形ク
ひどく暑いころに、
宵のうちは管絃の楽を奏でて過ごして、夜が更けて、少し涼しい風が吹いた。
蛭が高

かく飛びあがる。この男、見ふせりて、
用 力四終 格助 代 格助 サ四三命 活用 接助
く飛び上がる。
この男は、
（それを）横になったまま眺めて、

動詞
ナ行 変格 活用 終止 形

ゆく蛭雲の上までいぬべくは秋風吹くと雁に告げこせ
力四体 格助 副助 可未 接助 力四終 格助 格助 ガ二用 ※あつえ命
空高く舞い上がる蛭よ、雲の上まで飛んで行けるものなら、天上の雁に、「下界では」秋風が吹いているよ、だから女からの手紙
を運んで早く帰ってこぬように」と告げておくれ。
※他に「対する願望を表す上代の助動詞」です。

暮れがたき夏のひぐらしながむればそのこととなくものぞ悲しき
形ク体 格助 マ二已 接助 代 格助 格助 形ク用 係助 形ク体
なかなか暮れない夏の日を、一日中もの思いにふけていると、何がということなく、もの悲しい。

単語Q 解答

- ア 大切に守り育てる。
- イ なんとかして。
- ウ 難しい。容易でない。困難だ。
- エ 一日中。